

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900254		
法人名	医療法人社団沖田内科医院		
事業所名	グループホームさくら 陽だまりユニット		
所在地	島根県浜田市金城町七条ハ564番地1		
自己評価作成日	平成29年6月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitsrus&ijyosyoCd=3271900254-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成29年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事前や外出後は石鹸での手洗い習慣等一人一人の健康に配慮しています。寝たきりにならないよう筋力保持の為に役割を持って頂き、出来ることで無理なく動いていただける声掛けを実行しています。言葉使いにも気をつけるよう努力し、個々、興味のある話題の提供に努め、笑顔を引き出せる声掛けを心がけています。嚥下体操やラジオ体操も一日の流れの中に取り入れ楽しく行っています。また中庭に草花をおいたり、メダカを飼ったりと利用者と共に楽しんでいます。体調に変化があった場合早めに医師に相談する体制にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体と言う事もあり、健康面、医療面に於いて利用者本人、家族は安心おられます。夜間や緊急時も速やかに、隣接の沖田内科医院の指示や対応が可能となっています。管理者、職員は認知症を良く理解され利用者がそのらしく生活出来るよう個々の能力に合わせた支援を継続されています。利用者の表情は明るく食事の配膳や洗濯物たたみ等、個々の役割を持ち生活されていました。日常的には、季節を感じて頂くため、昼食持参で遠足に行くなど外の空気を感じてもらったり、天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたり、ホームの畑を見に行かれたりと穏やかに過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を作成し、それに基づき実施している。毎週月曜日に朝礼にて理念を確認し、実践に向けて日々取り組んでいる。	月曜日の朝礼で運営理念・ケア理念を唱和されています。職員は名札の裏に運営理念を記載された物を携行されています。「地域に密着し、開かれたホームになるようにします」の運営理念のもと実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回地域の老人会とホームで交流行事を行っている。保育園児の交流も出来た。日頃お世話になっている薬局などに手作りおやつを配ることも出来た。	地域の敬老会ボランティアの方々と、4月の交流会や9月の敬老会で交流を持たれています。園児の体調不良により利用者の体調を考え 残念ながら今年は小国保育園からの笹飾りを受取るだけの交流となった。地域の方によるボランティアも定期的に来られ、粽づくり、窓拭き、畑仕事等を手伝ってもらっています。お世話になっている薬局などにホームで作った手作りおやつを配ったりされ交流されています。かかりつけ医受診の時顔馴染みの方から声をかけてもらわれ馴染みの関係が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春は親睦会、秋は敬老会を催し地域の高齢者を招き演芸や茶話会を行い利用者と共に楽しんでいただく機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、サービスの実際について外部の目で助言をいただいている。	2ヶ月に1回開催され、現況や行事等の報告が行われています。また、利用者の日々の生活など様子、職員研修の報告等も行われています。会議に於いてサービスについての助言もあり、ケアに取り入れられています。会議に地域の方の参加人数が少ない場合もあり部分は苦慮されています。	行事等のビデオを見もらったり、ホームの食事を一緒に食べてもらい食事や様子等、利用者の方々の雰囲気を知ってもらうことも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員である支所の保健師と事業所の実情や取り組みを運営推進会議を通じて報告、相談している。	運営推進会議に支所の保健師が参加されています。日頃よりホームの実情や取り組みを報告、相談されており、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は鍵をかけない様になっている。インフルエンザ発症があり家族 本人同意の元 短い時間の拘束を行った。	職員間で身体拘束をしないケアを理解されケアを実践されています。夜間以外は玄関の鍵をかけるようにされています。インフルエンザ発症があった為、蔓延予防の為に、家族、本人の同意を得て、一定期間行動制限が行われました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待は見受けられないと思うが注意を払い気をつけていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し了承を得たうえで、契約している。また、制度改正がある場合再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に表される機会はあるが、外部者にはそのような機会は少ない。家族会、利用者への面会等、運営推進会議等に家族メンバーを加えそのような機会を設けている。家族会時に思いを書いていただくようアンケート用紙を配布した。	相談窓口、担当者が設置されており、家族会、利用者面会時に意見・要望等を聞くようにされています。運営推進会議より提案があり、アンケートの実施や家族会や個別の意見等を職員会議で検討し運営に反映させておられます。「さくらだより」を送付し利用者の様子や行事等をお知らせしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで随時意見は出されており、ユニット内で解決出来ることは随時解決し、出来ない場合は両ユニットの全体会議で話し合ったりしている。	管理者は、毎月のユニット会議や全体会議、朝礼で職員の意見や提案を聞き、検討されサービスに反映するようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績等の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画は作成していないが、研修の案内があった時は掲示板に貼って希望をとり、交代で参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に本人を交え思いを聴く機会を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまで家族等の思いを聴く機会を必ずつくり見学に来て頂くなど不安等を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援を利用していただけのような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話やスキンシップを密にして、出来ることを手伝っていただく事で共に暮らすことに意識を持ち学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助や衣類の調整外泊など色々な場面で家族へ相談し協力をえることで一緒に支えていただけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族や生活歴を話題に取り組み大切にしてきた馴染みの人や場所が途切れないようにしている。面会時には ゆっくり過ぎて頂けるよう心がけている。	家族や本人の生活歴を話題にし馴染みの人や場所が途切れないよう取り組んでいる。面会時には ゆっくり過ぎてもらい家族の関係を大切にしている。ユニット毎に利用者を理解され馴染みの人や場所との関係継続の支援を行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強制せず利用者同士が関わり合えるよう声掛けに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者はいないが、家族のボランティアがあり大切にしている。また退所後も他施設と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動、表情を観察し一人一人の思いを把握するように努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を本人、家族等に確認されながらケアプランに取り入れられています。畑にはジャガイモ、さつまいも、小玉ねぎ等が植えてあり食材に活かされています。	利用者が役割を持ち生活できるよう心掛けられると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話の中から経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康状態、出来ること等の現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて介護計画の見直しを行い、それぞれの意見を反映した介護計画書の作成に努めている。介護計画書にある項目を個人日誌に掲げチーム皆で確認していける仕組みになっている。	本人、家族等の気付きや意見、アイデアを話し合い、検討されケアプランを作成されています。モニタリング・評価は6ヶ月に1回実施されています。定期的にケアミーティングが実施されています。状態に変化があった時は、随時見直し、プラン変更が行われています。	特に、プランにあがっているサービス内容が本人の都合や拒否等で行えなかった場合、理由等より詳しく状況の記録をされておくとより良くなると思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録するための日誌に日々記入し情報を共有し同一の介護ができるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が希望すれば外出や外泊がいつでも可能であり、通院介助も家族の方の付添いが出来ない時などはホームの方で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に昼食持参で遠足やドライブに出かけお茶を飲んだり季節を感じたり等、楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	サービス利用開始前にかかりつけ医の希望についての確認が行われており、その結果、本人、家族の希望で全員、法人の沖田内科医院をかかりつけ医とされています。沖田医院がホーム近くにあることで、夜間や緊急時でも対応して頂けるので安心されています。歯科、眼科、整形等他科受診は家族の同行受診とされています。家族が難しい場合等は職員で対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談をし早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医等と話し合い全員で方針を共有している。「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいる。	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明をされています。重度化や看取りが必要になった時は本人、家族、かかりつけ医と話し合い対応方針を共有されます。「できること、できないこと」を見極め、家族にも詳しく説明し支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医療機関の協力の元実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回消防訓練を行っている。本年度は災害時避難訓練も行き、避難場所の確認をした。水、缶詰、米の備蓄の準備あり。	年2回消防訓練が行われています。避難誘導、初期消火等の消火訓練が行われています。本年度は災害時における避難訓練も行われ、避難場所としてのみどり会館の場所を確認をされました。地域の消防団に非常災害時の連絡先に登録依頼も行われました。水・缶詰・米等を備蓄されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシー確保に努めている。	年1回は法人内接遇研修に参加されています。研修参加後、特に言葉遣いに注意し、利用者の誇りやプライバシーの確保するように、改善に向けて取り組まれています。個人情報の漏洩防止についても、会議や朝礼時に周知が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話しかける選んでいただくなど、自己決定していただけるような声掛けで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に可能な限りの希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類で清潔な衣類を身に着けていただけるように努めている。希望があれば散髪等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、配膳、片付けなど一人一人の力を生かしながら一緒に食事を楽しんでいる。	食事の準備、片付け、食材切り、配膳、一緒に献立を考える、味見をしてもらう等一人ひとりの力を活かし職員と一緒に行われています。職員は利用者と一緒に食べられ季節の話等会話を楽しまれています。時々外出をされ食事をされる方もおられます。敬老会時等にはバイキングやお抹茶会等を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して何度も水分補給の場面を作っている。(一人一人の水分量を記録し把握している)。栄養摂取に対しても一人一人の状態を考え食べていただけるように工夫している。殆どの利用者が10割摂取である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ口腔内洗浄の声掛けを行い、定期的に入れ歯洗浄剤を使い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じトイレ誘導など声掛けをし失敗を減らし不潔にならないよう支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握されトイレで排泄の支援が継続されています。利用者各々は決まった場所のトイレを使用されています。トイレ付の居室も設置されており、本人の誇りやプライバシーを確保するよう心掛けて支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材選び、日々少しでも身体を動かしていただく様に声を掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態を把握し本人の意向も取り入れ無理なく入浴を楽しんでいただいている。	ほぼ毎日午後入浴ができるようにされています。利用者は日替わりでの入浴となりますが、最低でも週2～3回入浴して頂かれています。夕食前入浴を希望される方もおられ対応しておられます。拒否傾向のある方には、声掛けを工夫をし入浴を頂いておられます。利用者個々に沿った支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴、トイレ誘導するなど安心して気持ちよく休ませていただける声掛け等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用 用法 用量について薬局より確認の用の用紙を貰っており、職員皆が目を通し周知している。薬は職員が開封手渡しで飲んでいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を見つけ(ゴミ袋おり、落とし紙おり、トランプや花札、洗濯物干し、食材切り、ドライブ、パズル等)楽しみごとや気晴らしになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々食材の買い物に出かけている。また天気の良い日には庭に出て日向ぼっこをしたり、昼食持参で遠足に行く等 外の空気を感じて頂ける様支援している。	新鮮な食材で食事を提供する為、近所のスーパーに毎日買い物に出かけられています。その折に利用者の方も一緒に買い物に付き添われることまあります。天気の良い日は庭に出て日向ぼっこをされたりホームの畑を見に行ったり、昼食持参で遠足に行く等、外の空気を感じてもらう支援をされています。ドライブで花見等にも出かけられます。家族にも、外出支援を呼びかけられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解の元、現在、お金を持っておられる方は1名。必要な物品があれば一緒に出かけ、出かけられない場合はレシートを渡しお金をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親子での手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す飾り付けや、心地よく過ごせるように、カーテン等を利用している。不快な音が出ないように隙間にテープ等を使用し防音対策に努めている。	共用の空間には季節を感じられる飾り付けが施されています。庭には桜の木や季節の花が植えられており廊下から眺められます。ベランダには瓶にめだかを飼う等自然と季節感にあふれる生活となっています。訪問時は梅雨で蒸し暑い時期でしたが、適度な温度調節が行われていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を廊下に置いている。利用者は思い思いに自分の居場所をつくり過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が家庭で使い慣れた物や好みの物を持ってきていただくように家族にお願いしている。	使い慣れた家具や好みの物を持ち込まれ過ごし易く工夫されていました。居室、トイレ、廊下等必要な場所に手すりを設置されたり、歩行器を使用され転倒を防ぐ等工夫され過ごされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、廊下等必要な場所へ手すりを設置したり、歩行器の使用等の工夫をしている。居室へ案内するための目印や居室入り口や食堂の椅子に個人名を入れ混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		